

平成29年5月20日(土)～21日(日)

自然体験活動 教職員講習会 活動報告書

2日間、絶好の五月晴れの中、主催事業『自然体験活動教職員講習会』を開催しました。参加者は、県内外の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員、その他に学童の職員、大学生と幅広い年齢層の方にお集まりいただきました。

最初の『開講式』では、緊張した面持ちの参加者。続いての『であいのゲーム』を通じて、徐々に笑顔が増えていきました。簡単な手遊びから始まり、歌に合わせたゲーム、じゃんけん、鬼ごっこなど。ゲームとしては、単純でも指導者の声掛けひとつで盛り上がりが変わってきます。結果、大いに盛り上がりを見せ、自然と会話が広がっていきました。



心と身体がほぐれたところで、昼食タイム。食事をしながら、ナイトプログラムの『スタッツ』の出し物の打ち合わせをしているグループもありました。

昼食後は、『課題解決のグループワーク』。グループ内で配られたヒントカードをもとに、ブロックを組み合わせて、1つの形を作るという課題です。7つある課題を制限時間内に1つでも多く完成させるために、グループで案を出しながら、進めていきます。回を重ねるごとに、グループ内の会話が活発になっていきました。



その後は、選択した3つのプログラムに分かれて、活動を行いました。

「①HOW TO エールマスター&キャンプファイヤー」では、エールマスターの役割、子どもたちとスタッツする際の注意点、ゲームの展開方法、トーチ棒の作り方、薪組などを体験しました。



「②学級経営で活かせる冒険教育プログラムの手法」では、スタッフが出す課題に対して、グループで意見を出し合い、答えを導き出していきます。やってみる⇒気づいたことを言い合う⇒再びやってみる⇒よくなる。この流れを繰り返すことで、少しずつ難しい課題も達成を繰り返していき、グループの仲が深まっていきました。



「③知っているようで知らない学校登山のイロハ」では、子どもたちを登山に引率する際の注意点、服装などの確認をしたあとは、ふれあいの村利用者の方が登る高取山へ挑戦していきました。途中、植物の話や登山道の説明をし、頂上まで辿り着くことができました。山頂からは、宮ヶ瀬湖の全体像がキレイに見渡せました。好条件の天気でした。実際に登ってみることで、注意することがより明確になっていきました。



夕食を食べた後は、ナイトプログラムの「キャンプファイヤー」。全グループがその日に考えたスタンプを発表していきます。歌あり、ダンスあり、劇ありで大いに盛り上がりました。スタンプの合間合間に行われるスタッフのゲームでも笑い声が絶えませんでした。「こんな楽しいキャンプファイヤーを子どもたちにもぜひ体験させたい。頑張ります」という感想をいただきました。参加者にとって、とても良い刺激となったキャンプファイヤーになりました。



2日目は、『朝のつどい』からスタートです。少し眠そうな身体を、歌を歌ったり体操をしたりして、少しずつ起こしていきます。朝食、宿泊棟の清掃を終えた後は、2日目のメインプログラムの『基礎から学ぶ野外炊事』。野外炊事の定番メニューの「カレー」を作ります。太い薪と細い薪の使い分け方、薪のくべ方の説明後、実践あるのみ。食材の準備が整ったグループから、火起こし道具を使って、火起こしを行っていきます。

これが、やってみると大変。グループのメンバーで息を合わせないとうまくいきません。「1、2、1、2」、「ロ〜ング、ロ〜ング」や「ワッショイ、ワッショイ」など色んなグループから掛け声が聞こえてきます。「それペースアップ！」の声とともにロープを引く手は早くなります。苦勞してできた火種にそっと息を吹きかけて、火を育てていきます。火がつくと達成感は最高潮を迎えました。「マッチ、ライターのありがたみが分かる」と感想を漏らしていました。

育てた火を使って、カレーもご飯も無事に作ることができました。苦勞してつくった分、また新緑に包まれた中での食事で美味しさは倍増でした。



片づけを行った後は、グループごとに2日間の『ふりかえり』を行い、終了となりました。

今回は、実際にふれあいの村を利用する際の視点でプログラム（キャンプファイヤーや野外炊事など）作りを行いました。その中で自分自身が体験をして感じた「楽しい」という気持ちを、ふれあいの村の利用の際に、子どもたちへ伝えていってほしいと思います。【文責：高橋】